市長定例記者会見（令和４年１０月２６日）録

１１時３０分～１２時１１分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況並びに、新型コロナワクチンの接種状況につきまして、御報告申しあげます。

本市の新規感染者の状況につきましては、県内の感染者数は、９月以降減少傾向が続いておりましたものの、１０月１１日からは前週の同じ曜日の感染者数を上回る状況に転じております。今後の感染者数どういうふうな推移するのか判断できる状況にはございませんが、社会経済状況の活発化において、接触機会の増加が見込まれていることから、警戒感を持ってしばらく注視する必要があると思います。

市民の皆様におかれましては、このような感染状況を踏まえまして、学校や職場、また、家庭内など、あらゆる場所での基本的な感染防止対策を、今一度、徹底していただくよう、お願いしたいと存じます。

このような中での、本市のワクチン接種の状況は、１０月２０日（木）時点で、３回目接種を終えられた方は、約２６万人で、接種率は、６１．９％、また、４回目接種を終えられた方は、約１１万６千人で、接種率は、２７．３％となっております。

また、オミクロン株対応ワクチンにつきましては、約７千人の方が接種を終えられたところでございます。

オミクロン株対応のワクチン接種につきましては、先日、国におきまして、接種間隔が５か月から３か月に短縮されました。

これに伴い、先日、御報告しておりますが、本市では、地元医師会と協議を行い、医療機関へのワクチンの配送状況や、インフルエンザの予防接種に伴う医療機関での混雑等を踏まえた上で、新たに接種券の追加発送日（１１月１４日・４３，７００件）を設け、接種券の発送件数を再調整し、前回の接種から３か月が経過した方に順次、接種券を発送することとしております。

ただ、前回の接種から３か月が経過した方の中にも、接種券がお手元に届いていない方が一定数ございます。急ぎ接種を希望される方に対しましては、個別に接種券を発行するなどの対応を行ってまいりたいと存じます。

いずれにいたしましても、本市といたしましては、国の方針に基づき、年内

に、希望する方が接種を終えられるよう、県とも連携し、接種体制の確保に取り組んでまいりたいと存じます。

また、初回接種（１・２回目接種）に使用している従来型ワクチンは、年内で、国からの供給が終了する予定でございます。

また、オミクロン株対応ワクチンは、初回接種が完了しないと接種ができませんので、まだ、初回接種がお済でない方は、年内に初回接種を完了することを御検討ください。

加えて、これから本格的な冬を迎え、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が懸念されております。新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種も可能となっておりますので、接種を希望される方は、早めの接種を御検討いただきますようお願いします。

防災アプリ「たかまつマイセーフティマップ」のサービス開始について

それでは、題材に入らせていただきます。本日は２件ございます。

まず、はじめに、災害対策に必要な情報を可視化する防災アプリケーション「たかまつマイセーフティマップ」のサービスを開始するものでございます。

本市は、本年６月下旬に、「デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプTYPE３）」に採択され、「パーソナルデータ基盤」と「地理空間データ基盤」の構築に向けて取り組んでいるところでございます。

この「たかまつマイセーフティマップ」は、本市のスマートシティ推進において中心的な「防災分野」におきまして、「地理空間データ基盤」を活用したユースケースの一つとして展開するものでございます。

機能といたしましては、スマートフォンで現在地や指定した地点の、洪水や土砂災害などの災害リスクを確認できるものでございます。

なお、このセーフティマップにつきましては、１０月３１日から配信を開始するものでございまして、今年度中に、本市で整備しているＩｏＴ連携基盤ＦＩＷＡＲＥと連携した、災害発生時の警報や注意報、避難情報をリアルタイムに確認することができるようにするなど、さらなる機能拡充を行うこととしております。

今後におきましても、地理空間データ基盤のオープンデータ化を進めてまいりますが、これらのデジタル化の推進により、市民や事業者の利便性の向上や、新たな価値の創出、様々な地域課題の解決に取り組んでまいりたいと存じます。

高松市美術館特別展「さくらももこ展」の開催について

２つ目は、本市美術館におきまして、「さくらももこ展」と題する特別展を開催するものでございます。

「さくらももこ」さんは、まんが家、エッセイスト、作詞家、脚本家として、幾つものキャラクターや作品を、次々と生み出した、稀代なアーティストでございます。

残念ながら、５３歳の若さで亡くなられましたが、今なお、その作品は、世代や国を超えて、多くの方に愛され続けているものと存じます。

今回の展覧会では、国民的まんが『ちびまる子ちゃん』を始め、「さくらももこ」さんの幼少期や日常を綴り、累計発行部数２５０万部を超えた、大ベストセラーエッセイ「もものかんづめ」など、約３００点のカラー原画や直筆原稿が展示されており、その世界観を、余すことなく楽しめる内容となっております。

また、高松会場限定といたしまして、テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」で平成２７年に放送された「まる子、さぬきに行く」のダイジェスト版を上映いたします。

会期は、１１月１２日（土）から１２月２５日（日）までとなっております。

また、初日の１２日には、「さくらももこ展」の開催を記念してスペシャルトークショーを開催いたします。

「さくらももこ」さんと交友のあった「柊（ひいらぎ）あおい」さんと、少女まんが雑誌「りぼん」の編集長の「相田聡一（あいだ　そういち）」さんに、「さくらももこ」さんとの思い出や、その作品についてお話いただきます。

季節のうつろいや小さな日常をこよなく愛した、「さくらももこ」さんの代表作の数々に触れられる展覧会を、ぜひ、お楽しみいただきたいと存じます。

【記者質問】

【記者】

高松市が１０月から始めたプレミアム付デジタル商品券の市民からの評判は

市民への周知の為のイベント開催や、プレミアム付与を今後も行う考えはあるのか

【市長】

「高松市プレミアム付デジタル商品券」につきましては、先ほど発表したデータ連携基盤の片方のパーソナルデータ基盤を使って発行している事業ですが、スマートフォンアプリからのみの申し込みなどの限定条件があるにも関わらず、予想より多くの方にご参加いただいたと思います。マイナンバーカードでの本人認証が必須である、プレミアム率２０％の優遇策につきましては、おかげを持ちまして、販売４日目の１０月１６日に、販売定数に達したところでございます。

なお、マイナンバーカードをお持ちでない方などへの、プレミアム率１０％の優遇策については、まだ販売枠がございます。申し込み締め切りが、今月２８日（金）までとなっております。お早めにお申し込みください。

本実証事業は、スマートフォンでマイナンバーカードを読み取り、本人認証を行うこととしておりました。このため、スマートフォンをお持ちでない方や、読み取り機能に対応していないスマートフォンをお持ちの方が、プレミアム率２０％の優遇策を御利用いただけませんでした。その点は考慮しなければならないかと思っておりますが、全体としては、多くの方に御参加いただき、好評、評判としては悪くなかったと思っています。

また、今回のデジタル商品券につきましては、あくまで実証事業ということで、数の制限を設けた上で実証したというものなので、今後新たなプレミアム付与やイベントの実施は、現在のところ考えておりません。

ただ、デジタル商品券のほかに、健康や買い物、移動の関するデータ連携によるポイント付与の事業を来年２月２８日まで実施いたします。この事業につきましても、より多くの方に広くご参加いただきたいと存じます。

また、デジタル商品券とは別に、現在、食品ロス削減を目的とするフードドラ

イブに御協力いただいた方に対し、食品１００グラムにつき、買い物などに使える地域ポイントを１ポイント付与する活動を実施しております。

今月２８日まで、市役所１階玄関前広場で、正午から午後１時までの間、１０月３０日には、マルナカ栗林南店で、午前１０時から午後１時までの間、実施いたしますので、ぜひ御協力いただきたいと存じます。

【記者】

プレミアム率２０％のデジタル商品券の申し込みが上限に達したが、想定通りか

【市長】

２０％の方がマイナンバーカードの認証が必要ということで手続きも手間がかかり、マイナンバーカードをそういう形で使用して本人認証を受けられるというのを嫌がる方もおられるのでは、ということでこちらはすぐには販売が終わらないと思っていましたが、こちらの方が先に４日で販売枠に達したということで、興味を持っていただいた方が多かった、どうにか操作して手続きを終えた方が多かった、その点については我々の予想よりもスムーズにいったのかなと思っています。市民の方々もある程度喜んでいただいたと思っています。

【記者】

マイナンバーで高松市民と確認できた人のプレミアム率を２０％と高くした理由は

【市長】

１つにはマイナンバーカードを今後普及することによって本人確認ができた場合にはプッシュ型の給付も行えるようになるということで、今後手続きを簡略化できますよということを市民の皆様に分かっていただく実証実験の１つとして行ったということかと思います。ひいては、マイナンバーカードがあると便利だということで、今後の普及促進にもつながるのではないかということで実証実験としてやらさせていただきました。

【記者】

プレミアム付デジタル商品券について、本人の健康データ等と連携し活用するとのことだが、個人情報流出に対する対応は

【市長】

あくまで本人確認をした上で、個人情報の保護措置も図っておりますし、オープンデータ化する際は完全に匿名性の技術を使って情報として出ていくので、データ保護については万全を期してまいりたいと思います。今回の実証実験で問題点等がありましたら、実際に事業を行う場合に注意をしていくことにしたいと思います。

【記者】

新型コロナワクチン接種の間隔が５か月から３か月に短縮されたことへの受け止めは

【市長】

医療技術的な観点は分かりませんが、早く打つことによっても同じ効果がある、副反応が悪くならない判断で３か月にしようということで、できるだけ多くの方にワクチンの効果を発揮できるようにしていただきたいという国の考え方の基になったものですので、本市としてはそれに従ってできるだけ円滑に３か月が経ったら多くの方が接種できるように、接種券の発送もできるだけ前倒しでやれるようにしています。より多くの方が打っていただけるように、３か月になったということをＰＲしながら進めてまいりたいと思います。

【記者】

インフルエンザとの同時流行が懸念されているが、その点も踏まえ新型コロナワクチン接種の期間が短縮したことによる効果をどう考えるのか

【市長】

５か月ということになるとかなり多くの方が１２月、１月、２月くらいになります。３か月だと１１月から打てる方が非常に多くなるということなので、インフルエンザ等の流行の前にワクチンを打っていただくとすれば同時接種がより多くの方が可能なので、その点は効果があるのではと思っています。

【記者】
　インフルエンザワクチンの接種状況は
【保健予防課】
　１０月１日から高齢者無料接種が始まっており、今の状況では医療機関で順次インフルエンザワクチンの高齢者中心の接種が進んでいます。
【市長】
　人数までは分からないですね？
【保健予防課】
　具体的な人数までは把握できておりません。

【記者】
　オミクロン株対応など数種類のワクチンがあり、どれを接種すればいいのか市民が迷うこともあるが、その点についてはどう考えるのか
【市長】
　オミクロン株対応のワクチンですが、ＢＡ．１、２に対応するワクチンと、そのうちＢＡ．５に対応するワクチンが出てくるということですが、いずれのワクチンについても効果にはそれほど大きな差はない、いずれにしても効果はちゃんと発揮できるはずだということで国から言われていますので、よりＢＡ．５だけに偏ったりすることのないように、市民の皆様に安全性と効果について十分に周知説明しながら、より早く打てるワクチンでオミクロン対応のワクチンで接種していただくということを進めていきたいと思います。

【記者】
　従来型ワクチンは年内で供給が止まるとのことだが、現時点での残数はどのくらいか、また市民への接種への呼びかけは
【市長】
　従来型ワクチンについては、１回目２回目接種分についてある程度残さなければなりませんが、今、高松市においては１１月１日までに有効期限を迎えるモデルナ社製のワクチンが約１万人分、１１月２２日までに有効期限を迎える野庭バ

ックス製のワクチンが約６００人分保管しています。これらのワクチンは、基本的には初回接種、１回目２回目接種を中心に進められていくので、初回分ということで限定的になるので、多分余ってしまうだろうと、そこは避けられないと思っています。
ただ従来型ワクチンによる初回接種についても、５０の協力医療機関で個別接種を行っていただいておりますし、年内は集団接種でも初回接種を行うことにしておりますので、そちらでできるだけ大量廃棄にならないように使用し、有効活用に努めてまいりたいと思います。
　ただどうしても余った場合は先ほどの期限で廃棄せざるを得ないと考えています。

【記者】
　池田知事が琴電の本町踏切について国に道路高架化を要望したが、高架化に対する期待感や効果についてのどのように考えるのか
【市長】
　琴電の沿線の連続立体交差事業は県が都市計画決定をして進めてまいりましたが、琴電の民事再生の事情もあり、一応中止という状態が続いたわけです。私が市長になって中止になって１０年以上が経ちましたが、今回都市計画会議の議論の中で廃止の方向性が示され、今後正式手続きを経て廃止になるという見込みが立ちました。ただ、連続立体交差事業が廃止になるのはいいが、課題として本町踏切の混雑渋滞緩和、ＪＲ高松駅と琴電との結節という課題がありましたが、それをどうするかという点で、本町踏切の渋滞緩和、混雑緩和について、今回高松環状線道路を高架化し、本町踏切を渡るという県の新たな方向性が出たということは、従来から高松市としてそちらの方向性を主張していたので、歓迎したいと思います。
正式手続きについてはこれからということなので、推移を見守ってまいりたいと思います。
　従来、県からは中央通りの手前、寿町交差点で高架をやるという話でしたが、それが今回東に延びて、朝日町の物流団地等まで伸びるということは産業振興上も大きな効果があると思います。ぜひともその方向で進められるように県と協力

しながら、市としても考えてまいりたいと思います。

【記者】

琴電沿線の連続立体交差事業が廃止になったが、市として高松駅への結節など交通網の整備を今後どう考えるのか

【市長】

サンポート地区については、ご承知のように県立アリーナの整備を中心として、大学の駅前キャンパスの整備、新駅ビル、高級ホテルも立地するという大規模開発が目白押しになっています。それらをいかに調整をしながら、サンポート地区において、特に人の導線や交通をどういうふうにしていくのか、大きな問題があり、それについて市としても未来ビジョンをお示しすることとして、作業等を進めています。新しい池田知事もそれぞれのお考えがあるということなので、県とも調整しながら、サンポート地区が高松市の、あるいは香川県全体の１つの大きな顔の部分なので、非常に魅力のある地域として、安全な交通が確保される地域として、またあるいは効率性が図られる地域として、よりブランド力がアップする形でいい地域となるように進めてまいりたいと思います。

【記者】

新型コロナ感染者数が１０月から前週比で上回り感染者数が少しずつ増えているが、年末にかけて人流の増加による感染者の増加の可能性への受け止めと感染対策は

【市長】

１０月１１日以降、前週の同じ曜日を上回るような感染者が見られています。いずれにいたしましても、片方では経済社会の立て直し、活性化も図っていかなければなりませんので、ウィズコロナの対応はこれからが本格的になっていくのではないかと思っています。従いまして、通常の経済社会の活性化を図るための促進先の事業もやっていきながら、感染拡大を防止するために、基本的な感染拡大防止策を徹底していただく、そういうお願いを常にしていきながら、ウィズコロナの時代を乗り切っていきたいと思っています。

【記者】

感染者数を抑え込むだけではなく経済活動とのバランスを考えるのか

【市長】

しばらくは共存せざるを得ないと思っています。その辺状況に応じて的確に対応してまいりたいと思います。

【記者】

屋島エリアが多くの人でに賑わっているが、最近の屋島エリアの賑わいに対する受け止めは

【市長】

屋島では、山上交流拠点施設「やしまーる」が８月５日にオープンし、非常に多くの方、特に休日前の夜には９時まで開いているということで、夕景夜景を楽しむ方を中心に多くの方が見えられています。来られている方の層を見てみますと、親子連れや若いカップルが非常に多いということで、実際８月、９月の「やしまーる」への、屋島山上への来場者数を見てみますと、コロナ前の令和元年度を２～３割上回るような来場者が見られています。

「やしまーる」も、オープンから２か月で、６万人を超える、多くの方々に御来場いただいています。先月からですが、パノラマアート作品「屋島での夜の夢」が公開され、さらに客足が伸びてきており、順調な来館状況となっております。

また、１０月に週末限定で、屋島の美しい夕景・夜景を彩るイベント「やしまーけっと」も開催されており、カップルや家族連れで、大変、賑わっていると伺っております。

アフターコロナを見据えて、先ほどもウィズコロナと言いましたが、十分感染対策には注意していただきながら、より多くの方に屋島山上を楽しんでいただくということで、地域経済の活性化につながることを期待しています。

特に夕景・夜景を観光客の方に見ていただくということは、それ自体、高松市内での宿泊にもつながるということで経済効果も大きいかと思いますので、今後の屋島の活性化に大いに期待しています。

【記者】

瀬戸内国際芸術祭や関連イベントもあり、屋島の経済活性化が当初の想定以上だったのか

【市長】

ある程度は人気が出るかなと思っていましたが、最初からコロナ前の２割、３割多い方が来場されているというのは、非常に評判がよかったなと思っています。

【記者】

１０月２４日から４歳以下の新型コロナワクチン接種が始まったが、現時点での高松市のスケジュールは

【保健予防課】

生後６か月以上４歳以下のワクチン接種については、高松市では１１月下旬に接種券を発送することを想定しています。それまでの間、各医療機関に調査を行い、接種可能な医療機関を把握し、その上で接種ができる医療機関を接種券に同封しお知らせしていきたいと思います。

【記者】

イノシシの出現で怪我をした市民もいるが、市としてどのような対策を講じているのか、また市民への呼びかけは

【市長】

イノシシが市内中心部に出没している事例が頻発しており、全部は捕獲できていない状況です。いずれにいたしましても、イノシシに遭遇した場合には、逃げ出すことのなく、じっくりと後ずさりをするといったようなイノシシに会った時の対応方法がホームページ等で掲げたりしていますので、十分確認していただきながら、怪我のないようお願いしたい。市としてもこういうイノシシが出没しているという状況を広くＰＲしながら、注意は色んな機会を通じて呼びかけてまいりたいと思います。

【記者】
　イノシシが海から上がってくるケースも多いが、沿岸部での対応は
【市長】
　すべてが海から上がってくるものばかりではないということですが、できるだけ見つけて捕獲に繋がるように、監視の目は関係機関と協力しながらより広く設けてまいりたいと思います。

【記者】
　防災アプリたかまつマイセーフティマップのサービスについて、高松はデジタル化に率先して取り組んでいるが、スマートフォン等に不慣れな高齢者に対する対策は
【市長】
　今回の防災アプリにしてもデジタルだからできるサービスというところで進めてきているので、高齢者の方はなかなかスマホでも操作に慣れない、使い切れない方も多いですが、デジタルデバイドを解消するような、デジタル指導員による研修会を開くなど、そういう機会を多くしながら、より多くの方、高齢者も含んだ方にスマホで確認できるような状況にもっていく、そのための対策には色々力を入れていきたいと思っています。
　基本的に今やっているのは、コミュニティ協議会ごとにスマホ教室を開き、１人は携帯キャリアの技術者、１人は地元のよく通じた顔見知りの方を講師として入っていただき、少しでもスマホが触れるようにしていただくという事業を少しずつ始めてきています。そういうのを色んな角度からやりながら、デジタルデバイドの解消に繋げていきたいと思います。

【記者】
　高齢者に対するデジタル指導を今後拡充していくのか
【市長】
　拡充していきたいと思います。

【記者】

次期市長選に大西市長は出馬表明されているが、自民党県連が支援表明、推薦を表明したことへの受け止めは

【市長】

来年の地方統一選挙で実施される高松市長選挙について、私が５期目をかけて出馬するということを６月議会で表明しました。

今後はいろんな政策を出しながら、それを支援していただける各種政党団体等に協力を呼びかけていくということなると思いますが、そんな中で自由民主党香川県支部連合会から今回推薦をいただいたということです。自民党香川県連とは私が最初の選挙から、４回選挙ありましたが、２回目の選挙を除いて、推薦をいただいていおりますし、今回もこれまでの実績等を判断いただいて推薦いただけたものと、非常に感謝しています。